

【企画分科会・自由論題】

A. 現代中国(企画)

テーマ：習近平体制下の中国政治・社会・対外関係

座長：川島 真(東京大学)

報告1：加茂具樹(慶應義塾大学)

中国政治の制度化と習近平政権

「習近平同志を総書記とする党中央」（習近平政権）の政治に対する関心の多くは、しばしば習近平総書記への権力の集中や政権の社会に対する抑圧的な政策にあつまる。習近平政権は胡錦濤政権と比較して「集権」していることや、その「強さ」が語られる。

たしかに習近平政権は、胡錦濤政権と比較して、その政治構造に幾つかの違いがある。たとえば習近平総書記が中国共産党総書記として選出する過程は胡錦濤とは異なっていた。胡錦濤総書記はカリスマとしての鄧小平による指名によって総書記の地位についてといわれるが、習近平総書記の場合はカリスマによる指名ではなかった。その過程には「民主的な推薦」という党内の「選挙」が組み込まれていた。最高政策決定機関である政治局常務委員会における総書記の政治的な位置も異なる。胡鞍鋼清華大学教授が指摘するように、胡錦濤政権は民主的な議論とコンセンサスの形成を重視する政策の決定構造をつくりあげてきた。一方で習近平政権は2013年11月以降、党中央に政策調整機構としての「小組」を複数設置してきたように、政策決定の権力を習近平総書記に集中させようとしている。

このように習近平政権は、明らかに過去の政権と比較して異なっている。キーワードは制度化である。総書記が選出されるまでの過程が制度化されていた。「民主的な推薦」は18回党大会だけでなく、17回党大会でも実施されていた。総書記である習近平に政策決定権限を集中させる権力構造を構築するために、政権は党内の手続きを極めて重視しているように観察できる。

この意味において、習近平政治の1つの特徴は制度化であろう。もちろん制度化は習近平政権の専売特許ではない。中国政治は党と国家幹部の定年制度の導入や兼職や連任を禁止する制度の導入などを積み上げてきた。習近平政治はその延長線上にある。ただし習近平政治が興味深いのは、新しい政治指導者の誕生と権力強化の過程が制度化したことである。

本報告は、中国政治の制度化に注目し、習近平政治の現状の分析と展望を試みる。

報告 2：阿古智子(東京大学)

なぜ、中国政府は弁護士を弾圧するのか

発展途上国である中国が大きく飛躍した背景には、規制に縛られすぎず、個人や企業がインセンティブを発揮したという側面や、社会保障政策がカバーできていない部分で地域や家族の相互扶助が力を発揮したという側面もある。しかし、現在の中国は、法の支配の浸透を阻み、権力やコネの乱用が横行している。

そうした中、近年、多くの弁護士たちが弾圧の対象になっている。今年は7月に一斉に弁護士の取り調べや拘束が行われたが、これは党・政府あげての統一した目的があつてのことなのだろうか。秋には国家主席の習近平が米国や英国を訪問する予定が組まれていたというのに、中国が自らイメージを悪化させるような行動に出るだろうか。習政権は、海外からの批判など意にも介さないほど自信があるということなのか。そうではなく、同時期にあった株価の乱高下に動揺したという分析もあり、中国に対する見方は極端にわかれている。

本発表は、中国が抱える構造的な問題を視野に入れた上で、弁護士弾圧の背景を分析する。権力闘争から個々の政策決定・実施の過程に至るまで、多くがブラックボックスに入っている中国の政治を明確にとらえることは難しい。しかし、その時々々の権力者の意図や政策の動きを追うだけでなく、一党執政体制下の中央集権と地方保護主義が複雑に絡み合う組織環境や人間関係を重視する文化的要素、インターネット時代の世論形成など、現代中国を重層的に考察する視角を提示したい。

報告 3：青山瑠妙(早稲田大学)

国際秩序における制度的権力の拡大

習近平体制に入ってから、中国共産党設立 100 周年に合わせての「百年の夢」が目標として打ち出された。つまり、2020 年までに国内総生産（GDP）と 1 人当たりの国民所得を、2010 年比で 2 倍にするという所得倍増計画である。対外政策においては、習近平政権は「一帯一路」を打ち出し、AIIB、BRICS 開発銀行を創設した。

もし中国の「百年の夢」と「一帯一路」が成し遂げられれば、アジア地域そして世界の政治・経済情勢に与える中国の影響が一層増すことは確実である。習近平体制下の一連の中国の動きは、一般的には既存の国際秩序への挑戦とも言われているが、多くの学者が指摘しているように、いまの中国はアメリカ主導のリベラルな国際秩序に参加する一方で、挑戦を試みている。

中国の対外戦略が実際どのように展開しているのかについて実証的に分析することは重要な意味を持つ。こうした問題意識のもとで、本発表で習近平体制の対外政策と前政権の対外政策と比較しつつ、中国の対外政策における連続性と変化、さらに国際秩序における制度的権力の拡大の側面から中国の台頭戦略の展開を検証したい。